**パラグアイ内政・外交（２０１４年５月分）**

**概要**

**（１）内政**

●１０日，与党コロラド党は，昨年４月２１日の大統領選での勝利から１年が経過したことを受け，カルテス大統領，リリアン・サマニエゴ党首，コロラド党議員，同党支持者等出席の下，大規模な記念式典を開催した。

●１９日，カンディア人権NGO代表は，４月２日に発生したEPP（パラグアイ人民軍）によるブラジル人農場経営者の長男アルラン・フィック少年（１６歳）の誘拐事件に関し，少年の解放と引き替えに監獄にいるEPPメンバーたちの解放を求めるオビエド・ブリテスEPP総司令官からの書簡を国家警察に提出した。

**（２）外交**

●４～５日，松島経産副大臣がアルト・パラナ県エステ市を訪問し，日本企業視察，フスト・サカリアス・イルン・アルト・パラナ県知事との会談等を行った。

●２２日，当国を訪問したリバス・ペルー外相は，同日，カルテス大統領表敬，ロイサガ外相との会談等を行った。

●２６日，外務省において，パラグアイ-ボリビア間の交通インフラ整備等による物理的統合に関する技術会合が開催された。

**１　内政**

**（１）大統領選挙勝利１周年記念行事**

＜記念式典の開催＞

●１０日，与党コロラド党は，昨年４月２１日の大統領選での勝利から１年が経過したことを受け，カルテス大統領，リリアン・サマニエゴ党首，コロラド党議員，同党支持者等出席の下，大規模な記念式典を開催し，同式典においてカルテス大統領が以下を内容とする演説を行った。

＜カルテス大統領の演説の概要＞

●客年４月２１日の大統領選におけるコロラド党の勝利により，パラグアイにおける民主主義と自由が強化された。

●リベラル党から引き継いだ政権の状態は良いものではなかったものの，それを非難するのではなく，国民のために働き，公金の無駄遣いや汚職の無い政府を目指す。

●過去の政権の関係者が関与したとされる多数の汚職事件については，司法の場等において，然るべく裁かれることとなる。現政権においては，秘密主義，公共財の悪用，利益誘導，縁故主義，差別等はもはや許容され得ない。

●現在までにパラグアイをすべての投資家にとって魅力的で信頼できる国にすることを実現できた結果，国際金融機関や外国企業は，パラグアイを秩序，予見可能性，人的資源，天然資源を有し,多くのチャンスを提供する国として評価するに至った。

●官民連携法や財政責任法などの重要法案の可決・成立に対する立法府の貢献に感謝する。

●貧困対策における成果を強調するとともに,極貧層削減国家プログラム「Sembrando Oportunidades」，貧困層及び先住民向けの住居の建設等を継続していく。

●パラグアイ石油公社（Petropar），電力公社（ANDE），セメント公社（INC）等の政府系機関への政府の関与を回復させ，経費削減を実現させた。

●公共交通システムの近代化，大規模なインフラ整備に加え，南米で初めて敷設された歴史を持つパラグアイの鉄道の復活（resurreccion）に取り組む。

●EPP（パラグアイ人民軍）の当国北部地域における公務員や地域住民の殺害事件に関連し，同地域の社会的・経済的発展に向け政府はそのプレゼンスを拡大させている。また，EPPによって誘拐されたアルラン・フィック少年（ブラジル人農場経営者の息子）が無事に解放されることを要求する。

●政権発足以降，密輸に関連し，９０５名を逮捕し，５６８キロの麻薬を押収するなど，歴史的な成果を挙げた。

●政権発足後４月末までに，９７，０００の新たな民間雇用が創出され，公共部門においても，今年中に２６，０００名分の採用試験が行われる予定である。

＜与野党議員の反応＞

●同式典に参加したベラスケス上院議長（コロラド党）は，コロラド党は政権与党となったが，党員が政府要職に任命されていないため，同党は政権の中枢にいないと述べ，カルテス大統領を批判した。

●野党の党首らは，同式典におけるカルテス大統領の演説につき，カルテス政権は未だ具体的な成果を挙げていないため，公約を繰り返すことに終始したと非難するとともに，政権発足後の９ヶ月間において，パラグアイが抱える社会問題は何ひとつ解決されていない旨述べた。

**（２）EPP（パラグアイ人民軍）による誘拐事件**

●１０日，ディアス検事総長は，４月２日にコンセプシオン県に所在するブラジル人家族が経営する農場に EPPメンバー約１５人が侵入し，同農場経営者の長男アルラン・フィック（１６歳）を人質に取り現場から逃走した事件に言及し，EPPに対し，同少年の早期解放を要求するとともに，国家警察と国軍との共同部隊による救出作戦に対し，法的側面から便宜を図る旨述べた。

●同日，コンセプシオン県ロレト市において，アルラン・フィック少年の解放を求める千人規模のデモ行進が行われた。

●１９日，カンディア人権NGO代表は，国家警察に対し，EPPのオビエド・ブリテス総司令官官からのアルラン・フィック少年の解放と監獄にいるEPPメンバーたちの解放を求めることを内容とする手書きの書簡を提出した。

●これに対し，同日，ディアス検事総長は，EPPが提案している監獄にいるEPPメンバーたちの解放と引き替えにアルラン･フィック少年を解放することを内容とする交渉には応じない旨述べた。また，デ・バルガス内務相は，人権NGOによる交渉の仲介は，政府の作戦を難しくするものであると批判するとともに，今後，政府は同少年の「解放」ではなく「救出」に作戦を変更する旨述べた。

●２６日，アルラン・フィック少年の父親等は，大統領府において，カルテス大統領との会談を行ったものの，同会談の内容は公表されなかった。

●２８日，ロイサガ外相は，パラグアイ政府がブラジル政府に対し，アルラン・フィック少年の救出に向けた支援を要請した旨述べるとともに，現在，内務省とブラジル法務省が調整を行っている旨述べた。

**（３）次期上下両院議長選出を巡る動き**

●８日，次期上院議長就任に関心を示しているとされるガラベルナ上院議員（コロラド党）は，これまで３回，上院議長を務めたこと等を理由に，次期上院議長就任の可能性を否定するとともに，モンヘス上院議員（コロラド党）が次期上院議長の候補者になり得る旨述べた。右発言を受け，モンヘス上院議員は次期上院議員就任に関心を有している旨述べた。

●１７日，ロペス上院議員（リベラル党）は，同党と左派政党が同盟を組み，リベラル党上院議員を次期上院議長に選出することとなる旨述べた。

●１８日，アファラ副大統領は，次期上下両院議長選出に関し，カルテス大統領からコロラド党の上下両院議員間のコンセンサスを模索するよう指示を受け，コロラド党両院議員との対話を開始した。

●２８日，モンヘス上院議員（コロラド党）は，コロラド党上院議員Bグループ内で，次期上院議長候補として選出された。同上院議員は，今後，コロラド党上院議員Aグループ及び他政党の議員との対話を通じ，コンセンサスの形成に取り組む旨述べた。これに対し，リリアン・サマニエゴ・コロラド党党首は，コロラド党上院議員１９名全員を招集した会議を開催し，統一候補を擁立することを提案した。

**２　外交**

**（１）松島みどり経済産業副大臣の当国訪問**

●４～５日，松島経産副大臣がアルト・パラナ県エステ市を訪問し，日本企業視察，フスト・サカリアス・イルン・アルト・パラナ県知事との会談等を行った。なお，同副大臣には，中山泰則通商政策担当審議官，田村修中南米室長，在パラグアイ日本国大使館館員等が同行した。

●松島経産副大臣は，エステ市に所在するフジクラ社のワイヤーハーネス製造工場を視察した。同視察について，松島副大臣は，多くの（パラグアイの）若者が日本文化を取り入れた同社で勤務する姿に感銘を受けた旨述べた。

●また，同副大臣は，アルト・パラナ県庁において，フスト・サカリアス県知事及び同県庁関係者との会談を行った。同会談において，同県知事は，（同県の工業化のために）水，食糧，労働力及び電力を提供できる旨説明するとともに，道路インフラ整備，上下水道整備が不足していること認めた上で，右整備計画における官民連携を通じた投資につき説明を行った。

**（２）リバス・ペルー外相の当国訪問**

●２２日，当国を訪問したリバス・ペルー外相は，同日，カルテス大統領表敬，ロイサガ外相との会談等を行った。

＜カルテス大統領表敬＞

●リバス・ペルー外相は,カルテス大統領を表敬し,ウマラ・ペルー大統領からカルテス大統領に対するペルー公式訪問にかかる招待を伝達した。

＜ロイサガ外相との会談＞

●ロイサガ外相及びリバス・ペルー外相は，外務省において会談を行った。ペルー外相の当国訪問は６年振りとなった。

●ロイサガ外相は，同会談後の共同記者会見において，両国間のアクセスの改善やパラグアイがペルーの湾港にアクセスする可能性等につき協議を行った旨述べるとともに，（ペルーとの協力により）国際貿易市場におけるより競争力の高い連結を模索する旨述べた。また，パラグアイは現在，ペルーとの二国間関係を増進させ，太平洋同盟諸国への接近を図っている旨述べた。

●これに対し，リバス・ペルー外相は，相乗効果を伴う良好な二国間関係が存在しており，右は両国国民双方の利益となる旨述べた。また，ペルー政府は，両国貿易の活性化のために，両国間の陸路のアクセスの改善に向けた対話を再開させることを希望している旨述べた。更に，今次会談において，貿易活性化に向けて，太平洋同盟がパラグアイに対して提供しうる可能性について意見交換を行った旨述べた。

**（３）パラグアイ-ボリビア間の物理的統合に関する技術会合**

●２６日，外務省において，パラグアイ-ボリビア間の交通インフラ整備等による物理的統合に関する技術会合が行われ，パラグアイからはゴンサレス外務副大臣，ボリビアからはエンダラ通商副大臣等が出席した。同会合後，ゴンサレス副大臣は，今次会合においては，両国間の空アクセスの改善，内陸開発途上国の開発に関するアルマティ行動計画，今後，オーストリアでの開催が予定されている内陸国グループ会合にかかる準備等が議題となった旨述べた。

**（４）abc紙による上田日本国大使に対するインタビュー**

●１９日，上田大使が当地主要紙の一つであるabc紙のオフィスを訪問し，ナタリア・スッコリージョ同紙報道部長との会談を行った。

●会談後，上田大使は，abc紙からのインタビューに応じ，日本の経済・技術協力はパラグアイを優先してきており，パラグアイへの協力を維持する意向である旨述べるとともに，日本の願いは，日本からのパラグアイへの投資を増加させ，直接投資と経済・技術協力とを組み合わせることである旨述べた。また，日本からの投資につき，既にパラグアイに進出した日本企業の成功により，日本におけるパラグアイ経済に対するイメージが改善した結果，現在，他の日本企業がパラグアイの進出の可能性を詳細に検討している旨述べた。

**３　要人往来**

**（１）来訪**

●４～５日，松島経済産業省副大臣（アルト・パラナ県知事との会談等）

●２２日，リバス・ペルー外相（ロイサガ外相との会談等）

●２６日，エンダラ・ボリビア通商副大臣（物理的統合に関する会合出席）

**（２）往訪**

●５～９日，ガッティーニ農牧相，チリ訪問（FAO地域会合出席）

●２０～２１日，アベド司法相，アルゼンチン訪問（ICJ関連閣僚会議出席）

●２４～２６日，レイテ商工相，ブラジル訪問（公式訪問）

●２６日，ロハス蔵相，ブラジル訪問（ラ・プラタ流域開発基金年次会合出席）

●２６～２８日，ラフエンテ教育文化相，アルゼンチン（教育関連国際会議出席）

●２９～６月１３日，ソサ労働雇用社会保障相，スイス訪問（ILO総会出席）